

西ノ茶屋町の成立は昭和35年なので、こちらは昭和39年の記事と思われます。

昭和43年3月13日 水曜日

霊験あらたな地藏さん



子孫の名乗りをまつ日向地藏さん

吉祥院西ノ茶屋町の安全守り

南ノ吉祥院西ノ茶屋町にある「日向地藏さん」は町内安全のお守り役、おかげで事故は皆無。町の人達は「このお地藏を作った与力に報告したい」とまじまじとまがしている。

明治維新などの藩士干渉で「石仏」が落中内外で舞じゃなく行なわれたが、町民たちがいち早く避難させたというエピソードもある。

松村家は四座雑色（上雑色）の一つで、四条室町で京都を4分割した南西方面を担当した町役人です。

西の茶家

まちの履歴書

(303)

の旧家、藤葉木村正三さん宅。木村さんは茶屋とちなみ次のような話を聞かされた。まずその呼び名「三軒茶屋」と呼んだのは大坂、久世方面の人。これに對し吉屋野天満宮のある政所町付近の人からは西方向にあたるので「西条」としんじよ。さらに同町より南の集落から「上(かみ)ノ茶屋」北の集落から「下(しも)ノ茶屋」と呼ばれた。明治以前までは三軒が勢いをふるっていたが、西高瀬川の舟運開始は致命

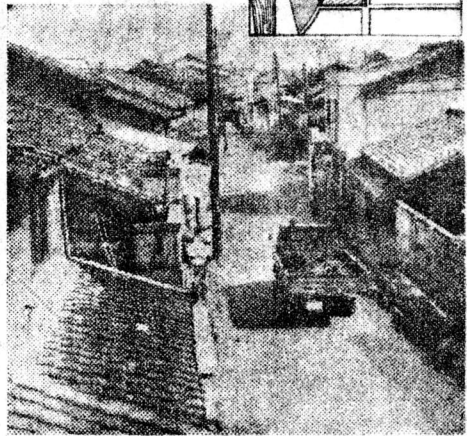
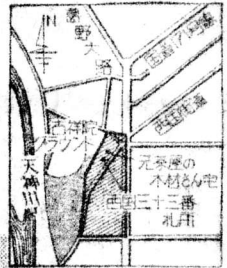
南区吉祥院

西ノ茶屋町

今でこそ西国街道は裏通りとなり、国道一七一号線に、動脈を譲っているが、ひと昔前までは京都と西国を結ぶメイン・ルート。旅人から「三軒茶屋でひと休みしてから京にはいる」と、街道の休憩所扱いにされたのがかつての西ノ茶屋(のちぢやま)町だった。もちろん町名の由来もその茶屋から。茶屋といっても祇園など花街の茶屋ではない。手甲餅は、フツフツと煮えながら、旅を続ける時は必ずマツばき。旅を続ける時は必ずここで弁当を開けた。同町京都都心部間はちよっとと息入どめ町内十八軒の観音講中が八日二十一日から四日間念仏をあげている。また付近の西国街道は、あさくさ道ともいわれる。午前二時でそこから、都で

旅人の一服、場所

京都・西国結ぶ主要路



京への旅人の通り道だった町筋



いまも変わらぬ日向地藏

った三を年車で運んだので「頑くさの油り」とはおもしくしいまは遠く。ゆるやかに力ノする舗装された西国街道は裏通りだが、住みよい住宅街の一画、東側にはバス停「西ノ茶屋町」があり足の便もよい。四年前「仁木ノ森町」から現町名に独立、町内会(中塚三郎会長)もまとまりがよい。政所町が豊公の奥さんの名前から、同町は庶民の旅の必要性から生まれた必然的な町名。いずれも古い歴史を誇り、吉祥院の代表でもある。